RENOVAの由来

当社の社名である「RENOVA」は、「再生可能」を意味する英語“renewable”の“renew”の語源であるラテン語“Renovarent”に由来しております。再生可能エネルギーの普及を通じて持続可能な社会の実現をリードする、新しい星“Nova”でありたいという想いも込められています。

ロゴマークについて

RENOVAのロゴマークは持続可能な社会を意味しています。外向きに広がる青い羽は、太陽、風車、水車、タービン、循環・再生のイメージがモチーフです。また、再生可能エネルギーが世界中に広がっていくことを象徴しております。コーポレートカラーの青は、エネルギー変革により実現される、ゆたかな地球をイメージした色です。持続可能な社会の広がりを、多様なステークホルダーの皆さまとともに実現していくRENOVAのミッションを体現したロゴマークとなっています。

株式会社レノバ
www.renovainc.com

自然と、あなたと、ともに未来へ。

RENOVA

株式会社レノバ

太陽、海風、森、大地。
あなたの頭上にひろがる自然のちからを、
あなたの足もとで育まれる自然のめぐみを、
大切に引き出していくために。

いつでも、いつまでも。
一緒に考え、動き、分かちあい、支えあいながら、
このまちに生きるあなたの想いに応えていくために。

私たちは、自然と、あなたと、どこまでも歩んでいく。
はじめは小さく、ささやかかもしれない。
けれど、今ともに踏み出すこの一歩が、
エネルギーで困ることのない100年後をつくっていく。

ひたむきに、ひたすらに、できることのすべてを尽くして。
再生可能エネルギーで、ゆたかな地球と暮らしを次の世代へ。
私たちは、レノバです。

自然と、あなたと、ともに未来へ。

RENOVA



















100年後のエネルギーのために。

近年、気候変動の問題はますます深刻化して、世界中でCO_2を出さないエネルギーへの転換が急速に進みつつあります。この潮流の鍵となるのが「再生可能エネルギー」です。太陽光、風力、バイオマス、地熱、水力等の自然の恵みから、グリーンなエネルギーをつくり出せます。

私たちレノバは、日本・アジアの自然ゆたかな場所で、地域の皆さまとともに、再生可能エネルギーの発電所の開発・運営に取り組んでいます。今後も、エネルギーを必要とする人々の生活を支える責任を胸に、再生可能エネルギー事業を通じた脱炭素社会の実現、地球規模の社会課題の解決を目指します。

自然と地域と共存共栄する再エネ発電所を目指して

再生可能エネルギー資源の多くは、地域の自然の中にあります。そのため、事業性の評価・検討から始まる全てのプロセスを通じて地域の皆さまとの対話を重ね、ご理解とご協力を得て、ともに地域に貢献する事業をつくり上げることが必要不可欠です。

レノバでは、事業企画、エンジニアリング、オペレーション、ファイナンスといった専門性を備えた自社チームが、再生可能エネルギー専業のプロフェッショナルとして開発から運営まで一気通貫で推進。環境や安全に配慮し、地域経済・社会の活性化に役立つ、地域と共存共栄する発電所を長期にわたって安心・安全に運営していきます。

自然条件・ニーズを踏まえた最適解を導くエンジニアリング

自然条件と地域のニーズを深く理解し、自然と共生する発電所を実現するために、最適解を導いていくのがレノバ流のエンジニアリングです。幅広い専門性と経験、再生可能エネルギーへの情熱を備えたマルチエンジニアが、国内外の優れた技術を徹底調査して取り入れています。

法的な基準をクリアするだけでなく、自然の地形を活かして設計し、近年過酷化する自然災害に備えるための森林保護柵や調整池・浸水池などの周辺地域も含めた防災にも力を入れています。運転開始後も、全国の各発電所でも現地での対策に加えて、各地の情報を本社に集約し、遠隔からも安全・安心を守る仕組み・体制を構築しています。










事業の開発から運営まで一気通貫で推進

地域の皆さまとの継続的な対話

事業性の評価・検討	発電施設の仕様検討・設計	許認可・設備認定の取得	資金調達	建設工事・試運転・検査	運転・保守管理	地域に根ざした発電事業の継続
風況等の資源量や地域ニーズを調査。持続的な地域経済活性化に資する事業計画を策定。	エンジニアリング部門が仕様を検討し、設計。電力会社と送電線連系や電力売買を協議。	関連法規・条例に応じた許認可や、経済産業省への設備認定等の取得手続き。	銀行・ファンドからの出資調達、銀行融資等の各種契約を締結し、現地法人を設立。	建設会社と協働し、設備の輸送や土木・電気等の各種工事の管理、試運転・検査を実施。	電力会社を通じてご家庭や企業等にクリーンな電力を提供。安全第一で効率的に運転。	発電事業者として発電所を長期保有。発電所を活かして地域の環境学習に貢献。

太陽

太陽光発電

レノバは、日本全国で太陽光発電所を開発しています。開発から建設、運転開始後のメンテナンスまですべてのプロセスを一貫して統括し、地域に寄り添いながら、災害に強い、安心・安全で安定した発電所の運営に取り組んでいます。





変える、変わる。自然との共生のために。

「私は初めて太陽光発電の開発の話を知ったとき、当初の計画では貴重な自然が残る里山への環境への負荷が心配でした。直談判をして調査にも同行し、協議を重ねた結果、ビオトープの設置など自然環境に配慮した計画に変更。自然への影響を最小限にするという信念は本物だと感じました。」

【三重県】NPOちょっと自然　植村明也 様　（下段右の写真／右から２番目）



海風

陸上風力・洋上風力発電

風力発電は、風のエネルギーを利用して発電し、世界での再生可能エネルギーによる発電量の約半分を担っています。風力発電には日本や世界で既に多く設置されている『陸上風力発電』と、今後さらなる導入が期待されている『洋上風力発電』があり、レノバでは、いずれも国内外で開発を進めています。








ベトナムの人たちと分かち合う、想いと熱量。

「学生時代からアジアの国々への貢献を志し、現在はベトナムを中心に海外事業を統括しています。大切なのは、想いと熱量を共有する現地の社員やパートナーとともに、現地の文化や制度、自然への理解を深めること。『日本流が必ずしも最適でない』と心に留めながら、地域に根ざした開発を進めています。」

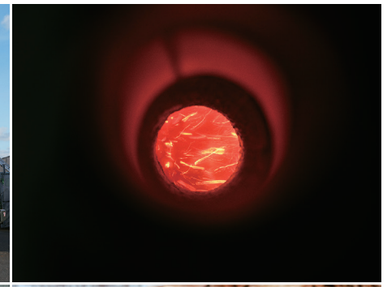
株式会社レノバ　執行役員／海外事業開発本部 本部長代行　斉木圭　（下段右の写真）

森

バイオマス発電

バイオマス発電は、木質資源などの生物資源（バイオマス）を燃料とした発電方法で、大気中のCO_2濃度に影響を与えないカーボンニュートラルなものです。レノバでは、国内の未利用材から作られた木質チップや、海外の木質ペレット、パーム椰子殻をバイオマス燃料として利活用しています。








地方×東京だからこそできる新たな形。

「地方の大型事業というと、従来は東京の力だけで進めることが多かったのですが、レノバは地域の声をしっかりと聞き取ってくれました。地方の企業にはその土地のノウハウがあり、東京の企業には多くの場所で培ってきた経験があります。その2つが交じり合うことで、新たな地域開発が可能になるのです。」

【秋田県】ユナイテッド計画株式会社　取締役社長／ユナイテッドリニューアブルエナジー株式会社　取締役社長　平野久貴 様　（下段中央の写真／左から２番目）

第一次産業の誇りを力に変えてくれた新事業。

「第一次産業の林業は地域経済や自然環境を支える重要なものですが、近年は伸び悩んでいました。そんななか従来は安価で取り引きされていたグレードの低い木材をバイオマス発電の燃料として供給できるようになり、林業にとって大きな活力となっています。」

【秋田県】株式会社堀川林業　代表取締役社長　堀川義貴 様　（下段右の写真／右から２番目）



大地

地熱発電

日本は世界有数の火山国であり、地熱資源に恵まれています。国産の自然エネルギーを利用する地熱発電の普及促進は、日本のエネルギー自給率の向上につながるため、レノバは日本各地で開発を進めています。地熱発電は天候を問わず24時間連続して発電することができ、ベースロード電源として最適です。





そこに暮らす人たちに寄り添うこと。

「事業の計画段階から進捗状況に合わせて丁寧な説明をいただいており、行政の立場からは不安なく、高い信頼のもと事業を進めていただいています。地域住民に対しても、説明会などの広報活動を通じて環境への影響、事業の進捗状況を周知してくださり、地域住民も理解を深めながら事業を見守っています。」

【北海道】函館市役所恵山支所　産業建設課長　小林竜司 様　（下段右の写真／左端）

インタビューをお受けいただいた方のご所属・お役職等は、取材当時のものです。





100年後の地球と暮らしのために。

レノバは2000年の創業以来、一貫して「環境とエネルギーの問題を解決する」という旗印の下で事業を進めてきました。自然と共生し、50年後も100年後も持続可能な形で人々の生活にエネルギーを供給する。そんな発電所を、世界中に実現したい。それが私たちレノバの夢です。地域の皆さま、多様なパートナーの皆さまと一体となって、この夢に取り組んでいきたいと思っています。

今後、間違いなく、再生可能エネルギーは世界のエネルギーの中心を占める存在となります。そうなったとき、エネルギーで困ることのない、安心・安全で心地よい社会が訪れることでしょう。レノバは再生可能エネルギーという自然の力を最大限活用して、ゆたかな地球と暮らしを未来の世代につないでいくために、これからも挑戦し続けます。

株式会社レノバ　代表取締役社長 CEO 木南 陽介

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

レノバは2050年の脱炭素社会実現への貢献にコミットします。

ZERO EMISSIONS CHALLENGE